

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300085		
法人名	株式会社 いわしや窪田		
事業所名	グループホームみずほ		
所在地	熊本県下益城郡美里町安部235番地1		
自己評価作成日	平成29年11月6日	評価結果市町村受理日	平成30年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成29年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人の自由を尊重し、ゆっくりと個人様のペースに合わせた介護を行っております。個人様に出来る範囲で洗濯や掃除、また畑などを手伝って頂き、心身機能の改善を図っていきます。また現在1番館では共用型の認知症デイも行っており、入居者様も一緒になって体操や脳トレ等に参加していただいております。カラオケや体操も一緒に行われ、にぎやかに、また外部からの参加によって、また違った雰囲気でも過ごしておられ、いい刺激になっていると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

先行する1番館と、後発の2番館というホームは、管理者やケアマネジャーの変更という過度期にあり、今回の自己評価も現状を見つめる機会として真摯に取り組み、管理者2名と職員はスクラムを組み再出発したいと熱い思いを持って日々のケアに当たっている。各ユニット共に100歳・101歳と町の長者番付けの上位を占める入居者等高齢化にもあり、今できる最大限のケアに努める等お互いが切磋琢磨しながらサービス向上に努力してる。認知デイの共用型の1号館は地域との接点として生かされると共にアクティブティを行うことで楽しいひと時となり、2号館では入居者同士の仲睦まじい姿や趣味の継続等できる事を支援する等ユニットにより違いは見られるものの、職員の寄り添う姿に違いはなく、実践者研修に参加したことで、認知症ケアの大変さや管理業務についてあらためて認識されており、今後の展開に大いに期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を考えながらの実践は行っていないと思いますが、本人に出来ること、やってほしいことを考えながら生活の援助を行っていると思います。	開設時からの理念を継続し、新管理体制となり職員の対応について気づいた時点で指導し、申し送りにより共有化を図っている。あらたまって理念を振り返る事はないが、職員会議を通じて入居者個々の対応等理念をもとに話しあっている。管理者として家族にも分かりやすく、職員のケアに直結できるものへと変更したいと考えたこともある。	管理者研修の中で理念の与えるものの重要性が認識されており、新年度に向け、理念を振り返ってみるのも良いでしょう。理念の掲示方法や、職員や家族との共有化について考えてみてほしいと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	野菜の苗植えや敬老会など、地域からの参加も多数あっています。しかしもっと交流をしていけるように運営推進会議で、地域の方にも質問や助言をいただいております。	地域に声をかけた敬老会は区長や近隣住民、ボランティアや家族等の参加により盛大に開催されている。また、野菜作りには耕すことから肥料やりまで住民の協力を得ている。地元の消防団や近くの福祉事業所との合同避難訓練等も行っている。	運営推進会議の中でどんどや等地域の行事をリサーチしており、地域に出かける予定である。今後とも、地域との交流促進に努めていただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来ていないと思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	色々な助言や職員全体で話したいことなどはサービスの向上につながるように、職員会議などで全体で共有しています。	定期的開催する運営推進会議は、2ヶ月間の状況を発信し、地域の情報リサーチの場やホームでの災害(雷)等を話しあい、雷の多い場所として避雷針の設置等を検討している。また、事故防止等の意見や苦情処理について話し合っている。更に雑談の中からも良い意見を見出しているが、記録としては残されていない。	定例化した運営推進会議は役場(福祉課)や地域包括支援センター、区長、前入居者家族や現家族に案内されており、メンバー構成は充実している。今後は参加委員との意見交換など議事録として残すことや、ホームの課題等テーマを絞った話し合いなど検討し、出された意見等をサービスに反映されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場へ赴き、こちらから色々な質問などをしたり、運営推進会議の際など活動の助言などを求めたりしています。	管理者は書類上の不明な点等役場に頻繁に出向き、地域包括支援センターや社協等その都度相談しながら運営している。会議認定更新を代行し、訪問調査時に立会い、情報交換を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は何度も話し合っており、夜間のセンサーなどについてはまだ、改善までには至っておりません。ご家族様とも話し合っております。	今年度は身体拘束の研修は行ってはいませんが、管理者は職員会議時に事例を通して指導すると共に、スピーチロック等言葉使いにはその都度注意喚起している。入居者の帰宅願望には一緒に話をしたり、夜間帯にはリビングで一緒に過ごすことで落ち着いてもらうこととしている。	家族の希望である“尿意があるうちはトイレでの排泄を”との思いに応え転倒防止にセンサーを付けているが、センサーも拘束の一つとして捉え、家族に同意を得てプランに組み入れる等拘束の意識は高く、身体拘束及び虐待防止について研修を開催し、再認識や意識強化としていただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はないと思っています。毎月の職員会議で言葉使いなども考えております。法律からの詳しい話はしておりません。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全体ではまだ行ってっておりません。成年後見人制度の話など先日の研修で少し学ぶことができました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っていると思います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見は出来るだけ聞いて、改善できるところは話し合い、改善に向けて取り組んでいると思います。	家族の訪問時に情報を発信し、要望等を聞き取りし、家族の言葉を申し送り時に職員と共有している。入居できたことや歩けるまでに改善出来た事への感謝が挙がっている。毎月の請求書に沿え情報の発信や、運営推進会議の中で外部評価血管を報告し、参加の無い家族には郵送により共有化とする意向である。	敬老会が家族との交流の場として生かされている。今後も家族の忌憚の無い気炎を引き出ししたり、家族の訪問に繋げる施策を検討いただきたい。また、家族からの声、良いことでも記録として残し、職員のモチベーションに繋げていただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	機会は改めて設けておりませんが、いろんな意見を聞いたときは本社にも相談して返答しています。	職員会議の中で職員の意見を収集したり、一緒に業務をする中で提案等を聞き取りしている。職員の意見である収納場所が少ないことや給与面など本社に相談している。また、職員の増員に向け部長に上申したり、産休や育休、互助会制度等福利厚生は確立し、管理者を中心に風通りの良い体制である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の改善はもとめていますが、なかなか進んでいかない状況です。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修など受ける際は、勤務として対応してもらい、また必要な研修など参加費なども出していただいております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は2か月に一度管理者会議があつていただきますので状況を聞いたりしておりますが、職員は交流等出来ていない状況です。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	なかなかいろんなことを言って頂ける方がおられないので、その際は家族などにどういう環境で、性格で、どんな仕事をしてなど細かく情報を集めるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	色んな不安や悩みなど聞いていると思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当のケアマネがおられたら、どのような方かを見極め、色んなサービスがある中で必要かどうかなども含めて話し合っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	仲良くなりすぎている部分があります。いいことではあると思いますが、他者との関係を築くように勧めるような対応はできていません。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と対応などについてなど相談などもよく行っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来ていないと思います。	家族や兄弟等の訪問や家族による自宅への帰省もあるが、これまで住まれていた場所への外出は難しい現状にある。居室でかご作りに勤しまれる姿もある。家族にこれまでの生活環境や性格、職歴等をリサーチされており、次のステップとしていただきたい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、話を振ったりしたり、一緒に活動に参加されるように促しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了された方のご家族からはあまり相談はあっておりません。しかし亡くなられた等の情報があれば挨拶などには伺っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位に検討しているのですが、やはり職員本位になっているところがあります。	入居者の中には寒い・熱いの訴えはあるが希望等はなかなか出されることはない様子である。買い物をしたいとの要望には家族に連絡し叶えたり、意思疎通や耳が遠い方もおられ、ホワイトボードでのやり取りや、動きによるトイレ誘導等を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報などは職員全員に申し送りノートなども活用して共有できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握は出来ていると思いますが、こちらでやってしまっている部分はあると思います。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	先日の研修より作成できるようになりました。職員や家族と相談して作成できていると思います。	新ケアマネジャーとなり、入居者がどうしてほしいのか等問題行動に“なぜ”という視点で検討し、本人の生活全体の意向と、介護に関する意向等家族の意向をもとにした方針と、サービス内容を立てている。プラン作成に向け、職員の情報を得ながら新しいプランを作成するとして、試行錯誤しながら取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の実践・結果等の記録はありませんが、介護記録にまとめて記録は行っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるかぎりご家族様やご本人様の要望に応じられるように柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ていないと思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来ていると思います。	本人・家族の希望するかかりつけ医を支援しており、現在往診と、必要に応じてホームや家族で受診に出ている。職員はバイタルチェックや食事・水分・排泄・口腔ケアなどを毎日様式の記録に残し、往診や受診前には、直近の健康状態について情報を共有し、医師や看護師へ伝達を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診や往診などの前には職員間で情報を出し合い、医師や看護師に伝えるようにしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は状況などを定期的に聞いております。そうした場合に備えての対応は出来ておりません。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	地域の関係者との取り組みは出来ていませんが、ご家族様と今後の方針などについて話し合っております。	入居時にホームの『看取りに関する指針』をもとに説明を行い、その時々で家族の意向を確認し、同意書を受けている。継続した医療支援が必要でなければ、ホームで対応できるギリギリまで支援したいとしている。急変時の対応については、外部研修へも可能な限り参加している。	開設の異なるユニットであり、入居年数が長くなされた方も多いユニットでは、特に急変や重度化への対応も課題と思われる。今後は職員のメンタル面にも配慮した研修会の開催や、日ごろのケアを大切にされた入居者へのケアを継続いただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	まだ不十分なところがあると思います。研修などに参加も勧めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年地域の方たちと合同で避難訓練を行っております。	これまで地元消防団や近隣介護施設の応援を受けた火災避難訓練を実施している。今年度は火災訓練を1回行っており、年度内に消火訓練を予定している。昨年の熊本地震では、ホームに大きな被害はなかったが、雷や雪などの自然災害対策が必要な地域であり管理者が課題としている。	火災対策として、チェック表(コンロやホーム周り・コンセントの埃など)を活用した安全管理に期待したい。また、災害時の備蓄はリストを作成し、準備と職員への周知が必要と思われる。地震に加え、雷・雪災害の訓練や対策等課題として認識されている事案への取組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	まだ数名の職員の言葉使いが悪い点が聞かれています。出来ていないと思います。	管理者は職員の馴れ合いの言葉使いをはじめ気になることがあれば、その都度指導を行い、入居者の誇りや尊厳を大切にしたいケアを共有できるようにしている。呼称は苗字や下の名などその方の反応を見て対応している。同性介助については、現在女性入居者も男性職員の対応でもスムーズに進んでいるようである。職員の守秘義務については入職時に書面で説明を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望が言える方からは自己決定が出来るようにしていますが、そうでない方に対してが本人の希望に添えているのか、職員の都合になってはいないか考えてまいります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ添えるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服など着替える際など、一緒に考えたり尋ねたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備は出来ていません。食事の際は一緒の時間ですが、別々のテーブルになっています。	献立はそれぞれにユニットで魚・肉のメインを決め、季節や入居者の好みなどを活かしてその日に決定している。食材は鮮度にこだわりながら、物産館やスーパーなどに出かけている。朝食は専任者を中心に作られ、昼・夕食は職員が担当している。入居者が調理に関わる機会は殆どないが、菜園の野菜の収穫や下膳などできる事で食への関りを持っている。職員も同じものを摂ることで、思いを共有している。	エプロンについては、首に負担のない使用方法や介助の方にはタオルでも対応可能でないかなど安易に頼らない方法を検討いただきたい。また、ユニットによっては入居者の支援後に職員のみで食事休憩を摂っているが、入居者と一緒に摂ることで、会話も弾み楽しい食事に繋がると思われ、検討いただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量のチェックを行い、少ない方には捕食や水分等促しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ていると思いますが、不十分なところがあると思います。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄などができるように努めています。	日中は可能な限りトイレでの排泄を支援している。排泄用品も昼夜で使い分け、声かけや誘導も安全に配慮しながら取り組んでいる。家族から夜間はオムツ対応でもよいなど要望を出されることもあるが、本人の尿意があるうちは、現状のまま対応していきたいことを伝えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ここに応じた予防には取り組めておりません。		
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来ていないと思います。	入浴は週2～3回の支援を行い、必要な方には保湿剤で乾燥を防いでいる。浴槽は家庭的なものであるため、身体状況ではシャワー浴が殆どの方もあり、特殊浴の必要性も挙がっている。菖蒲や柚子を使った季節湯も取りれている。	今後も清潔保持としての入浴に加え、できる事で楽しい入浴支援に努めていかれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来ていると思います。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出来ていると思います。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別での対応は出来ていないと思います。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援はご家族に相談し、ご家族の方と行ってもらっています。本人の希望があり、家族もいけないう時は付き添い、買い物しています。ま全体での外出の機会を作ります。	外出は家族の協力による支援が中心になっており、帰省や買い物などが行われ、本人の希望により、家族の対応が困難な場合はホームで支援している。管理者は入居者の喜ばれる外出を支援したいと、隣町にある昔のくらし館を検討の一つとしている。	運営推進会議ではどんどやなど行事やイベントなどの情報も得られている。地域の人々との交流の機会でもあり、外出支援に繋げていかれることを期待したい。また、敷地内の散歩や散策、外気浴をはじめ、ユニット間の訪問なども身近な外出を支援いただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	受診の際など買い物される方は居られますが、1～2名のみです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	あまり出来ていないと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ていると思います。しかしまだ足りないと思います。	共用空間はユニット間で入居者に応じてソファや椅子の配置を検討し、テレビ視聴や外の景色を眺められるようにしている。また、玄関や廊下には観葉植物や額に入れたきめこみ作品を掲げたり、職員が工夫を凝らした季節の飾り(クリスマス)が施されていた。開設時1号館のリビング食堂には、団上がりの畳の間が設けられていたが、車いす移動の妨げにもなり撤去するなど、入居者の状況に応じて改善や改修が行われている。	入居者の作品などを掲示する際は、近況の物を心がけることで、季節感や家族の楽しみにも繋がると思われる。また、来訪者が、ホームを訪れ一番目にするのが事務所であり、スッキリと開放的な窓口とされることを望みたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせる空間にはなっていると思います。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来ている方と出来ていない方の差が見られますが、ご本人様は気にされていないところもみられ、職員間でも検討しております。	入居時に本人が安心して過ごせる環境となるよう、使い慣れた物やを持ち込んで欲しいことを伝えている。収納はタンスなどより運搬面からも段重ねのプラスチックケースが多いようである。テレビや愛用の帽子、趣味の手芸(梱包ひもを使用)材料が持ち込まれた部屋など、必要な品が中心のようである。1号館は入居歴が長い方も多く、季節外の寝具や衣類の管理場所が検討中である。	持ち込みの品の多少ではないが、今後もどのようなものが馴染みの品か、衣類の管理など、家族への聞き取りや協力を依頼しながら居室作りを進めていかれることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ていると思いますが、いろんな意見を聞かせていただきたいです。		